

CRIIRADとは？

CRIIRADは、Commission de Recherche et d'Information Indépendantes sur la Radioactivité(放射能に関する調査および情報提供の独立委員会)の略称です。

非営利団体:環境保護団体として国に公認されている団体(NGO/NPO)です
分析研究所:フランス厚生省から技術資格証明書を認定された研究所です

CRIIRADは1986年に設立されました

チェルノブイリ原発事故の際、フランスの公的機関は、距離の遠さゆえに、放射能雲はフランスにまったく到達しないと発表しました。

そのため、ほとんどの人が何も知らずに、放射性物質にまみれた牛乳、チーズ、生野菜を消費してしまいました。

チェルノブイリ事故が環境と人間に及ぼす影響についての、こうした思慮の浅さを反省し、CRIIRADが設立されたのです。

CRIIRADは次のような目的で活動しています

- 放射能汚染と原子力に関連する危険性について調査し、人々へ情報を提供する
- 既存の検査および放射線防護の規制が維持され、適用されているかを監視し、改善を促す
- 私たちの健康や環境を守るために、必要と考えられるあらゆる策を講じさせる

原子力企業、国家、いずれの政党にも属さない独立団体であること。
これがCRIIRADの最も誇るべき特徴です。

この独立性が保たれ、適正な調査を実施できるのは、CRIIRADを支援して下さる多くの会員のおかげです。

財源と職務能力

CRIIRADの収入源

- ・ 会員の会費
- ・ 寄付
- ・ 研究所が行う分析、査定、研究

**しかしながら、取り扱い件数が多く、収入は十分とはいえません。
私たちが主張することに共感したすべての人々が、
ともに活動し、参加することが基本になっています。**

CRIIRADの提供するもの

分析研究所は、放射能汚染(食品、水、ラドンガスなど)を発見・識別する設備を有しています。
研究所は科学者グループで構成され、フランス国内だけでなく、海外での調査も実施します。

情報提供サービス: 出版物、講演会、教育研修、学校での啓発活動、展示、実践的なワークショップ、メディアへの参加

CRIIRADのこれまでの活動例

検査

食品汚染

1986年からつづけているCRIIRADの分析で、チェルノブイリ事故から11年後に以下の農産物の放射能汚染が検出されました。牛乳、チーズ、緑野菜、ハーブ、キノコ、木イチゴやブルーベリーなどのベリー類、ジビエ(狩猟鳥獣類)。

出版物:Fiche CRII-RAD n° 3「放射能とキノコ」 3.81€ 売り切れ

原発施設からの放射能放出

1990年、ローヌ県の沈殿を分析したところ、マルクールのコジュマ施設からの放射能放出により、河川の汚染が三角州まで拡大していることを突きとめました。

出版物:Info CRII-RAD n° 2 売り切れ

放射性資材の商品化

1993年、当研究所の分析により、放射性廃棄物の不正取引、アレスの製鋼工場とドロームの屑鉄業者への汚染資材の販売が明るみになりました。

CRIIRADは裁判にゆだね、ドローム県ピエールラット市の施設に処罰が下されました。しかし、放射性廃棄物の生産者は咎められませんでした。

出版物:Fiche CRII-RAD n° 5「消費財への放射性物質混入」 3.81€

周辺環境のクオリティ

1995年、コート＝ドール県で地下水を分析したところ、ヴァルデュック軍事センターからのトリチウム放出により、県内の3分の2が汚染されていることがわかりました。

原発施設からの放射能放出

1998～99年、CRIIRADは、原子力施設の放射性廃棄物認可更新申請の書類に、多くの不正を発見しました。(例えば、ロマンFBFC、サンタルバン原発、サンローラン・デ・ゾー原発、サクレイCEAなど)。

CRIIRADは何度も公的調査に立ち会い、次のような結果を得ました。

- ・ FBFC(フランス・ベルギー核燃料製造会社)は、最大限の希釈という基本を厳守していなかったため、その工程を改め、市の下水道への廃棄をやめました
- ・ サクレイCEA(フランス原子力庁研究所)は、情報地方委員会を設立し、CRIIRADも諸問題の解決に向けて話し合うグループに参加するために、登録されました。

出版物:Traist d'union n° 8、n° 11 各2.5€

情報公開

汚染された地域について

1986年以降、1000以上の分析を元に、CRIIRADはフランスの土壤汚染マップを作成しました(核実験やチェルノブイリ事故)。

出版物:Fiche CRII-RAD n° 2「フランスの土地と住民の汚染」 4€

1996年、アルプス一帯(フランス、イタリア、スイス、オーストリア)の特別調査で、チェルノブイリ事故の結果による重大な汚染の事実が判明しました。

出版物:Trait d'union n° 7 売り切れ、n° 8

ラドンによる被ばくについて

1988年以降、CRIIRADは、個人、自治体、企業を対象にラドン測定を行ってきました。この放射能ガスの被ばくは健康に大きな害を及ぼさない、と言い張る公的機関を相手に、何年間も闘いつづけています。CRIIRADは、このガスの蓄積による危険性について、国民に積極的に情報提供し、建築物や住居場所の測定検査を行っています。

監視システムの功績

1987年、国家が情報妨害しないように、CRIIRADは大気と水の放射能を継続的に測定する独立の観測ポストを設置しました。ドロームとアヴィニオン地方の観測網では、365日、24時間、検査と管理が行われています。1998年、観測ポストは、スペインの製鋼工場の焼却で発生したセシウム137に起因する放射性雲が、ローヌ渓谷を通過するのを検出しました。

防護

基準を遵守させる

CRIIRADは、安全基準の違反と闘っています……それは安全基準を遵守させる側の違反も含めてです！

1990年、エッソンヌ県サンオーバンで、CRIIRADが検査を実施したところ、重大な放射能汚染が明るみにできました。厚生省は、CRIIRADの測定を“でっち上げ”と主張しました。エッソンヌ知事は、CRIIRADを加えた調査委員会を設立し、イギリスの公的機関である国立放射能安全委員会に監査を依頼しました。その結果、汚染が確認されました。この地域は、一部放射能が除去され、監視下に置かれています。

出版物：CRII-RAD n° 12とn° 13 シリーズ(n° 5、6、7/8、11、12/13) 7.62€

1993年、ドローム県ピエールラット市で、解体・清掃管理を行っている会社が、許可されていないにもかかわらず、敷地内で放射能除去作業を実施しました。CRIIRADは検査を実施し、会社の敷地外にも汚染が広がっていることを明らかにしました。CRIIRADは、政府、メディア、市民に警告を発しました。

出版物：Info CRII-RAD n° 2 売り切れ

1997年、マンシュ県ラ・アーグで、カニとロボスターの汚染が明るみにできました。厚生省は、引き合いに出した制限値が原発事故時のものであることをはっきり述べずに、この汚染はヨーロッパの基準内であると主張しました。CRIIRADは言い逃れであると告発し、分析するようにヨーロッパ当局にゆだねました。

世論への働きかけ

1992年のフランスでの署名運動では、低レベル放射性廃棄物の分散処理計画を頓挫させました。

1996～99年のフランスおよびヨーロッパの署名運動では、消費財への放射性物質添加に反対しました。

**CRIIRADを支援する多くの会員のよう
に、
独立機関の存在が重要であるとお考えであれば、
次のような方法で、私たちの活動に参加してください。**

- CRIIRADの会員になる**／CRIIRADの活動を報告する情報誌「Trait d'union」(年4回)をお届けします。ヨウ素、チェルノブイリといった基礎知識を特集したテーマ別パンフレットも付いています。
- 寄付をする**／独立した調査の実現と活動を支えるために使用させていただきます。
- 出版物のサンプルを通して活動を知る**／小冊子：医学と放射能(診断のタイプ、危険性、防護の方法など)に関する資料や、チェルノブイリの痕跡(汚染分布地図、危険な食品など)、キノコと放射能(汚染率による種の区分)といったテーマごとのパンフレット、フランス国内の原発施設分布図など。

CRIIRAD : 471 av. Victor Hugo, Valence, FRANCE tel: +33 (0)4 75 41 82 50 / fax: +33 (0)4 75 81 26 48
E-mail : contact@criirad.org / Web : <http://www.criirad.org>